



下和泉小だより

横浜市立下和泉小学校

下和泉小学校が大切にしていること (R8)

副校長 菅田 真治

初夏の光がまぶしく感じられる季節となりました。今年は5月下旬から季節外れの高温が続き、昨年度とはまったく違う気候の中での学校生活となっています。子どもたちもまだ暑さに体が慣れていない様子が見られ、日差しの有無によって体感温度が大きく変わる日々です。学校では、こまめな水分補給や休憩の確保など、熱中症対策を例年以上に丁寧に行いながら教育活動を進めています。

子どもたちは学習や生活のリズムを整えながら、日々の活動に前向きに取り組んでいます。学年が進んで約2か月、教室では「自分で考えて動く姿」や「友達と力を合わせる姿」が多く見られるようになり、子どもたちの成長を少しずつ感じています。また、運動会に向けて、どの学年の子どもたちも目を輝かせながら活動に取り組む姿が見られていました。

特に6年生は、運動会に向けて、運営に必要な仕事でいくつかのプロジェクトに分かれ、自分が「ここなら力を発揮できる」と感じた活動を自ら選択して取り組んできました。担当の先生とのやり取りの中では、「〇〇だったらもっとよくなりそう」「〇〇だから、□□したほうがよい」といった改善点を自ら見つけ出し、次の行動につなげる姿が多く見られました。その表れとして、朝や昼の放送では、各プロジェクトが考えた取組を全校に呼びかける場面も増え、放送時間が少し長くなることもありました。教職員はその“ハプニング”を笑顔で受け止めています。それは、教職員の認識に6年生が自分の得意なことを生かし、学校全体に貢献しようとする姿に大きな意義を見出しているからです。



【今年度は、5/15 に学校や子どもたちの実態を踏まえ、それぞれ教職員が下和泉小に必要なものは？そのために自分がどんな力をつけていく？という話し合いの場を設けました。その時の様子です。】

運動会当日の6年生の姿からは、高学年のリーダーとしての成長と自己有用感の高まりがはっきりと感じられました。私は競技の結果以上に、その過程でどのように動き、どのような表情を見せていたかを大切に見ていました。6年生が「自分たちの動きが全校を支えている」「自分があるからこそうまくいった」と実感できていることは、自己有用感の育ちにつながる大切な経験だと考えています。

下和泉小学校では、これからも、以下にお示しする学校教育目標と中期取組目標のもと、学校経営に取り組んでまいります。中期取組目標を1年間の具体的な教育活動の中に落とし込みながら子どもたちと過ごし、今後も一人一人の自己有用感を育む学校経営を進めていきたいと思っています。引き続き、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

≪学校教育目標≫

「笑顔がすてき いいこといっぱい 下和泉」～ ふれあい 認め合い 学び合い ～

<中期取組目標>

- 「子どもにゆだねる」という種をまき、自分で(自分たちで)決めて、夢中になって主体的に取り組む経験を積み重ねます。
- 自分で(自分たちで)決めたことを最後までやり通し、本当の自信、プライド、自己有用感の根を伸ばします。
- 芽生えた自己有用感をもとに、他者との関わりをもち、自他ともに認め、尊重する姿勢と関わり続ける意欲の幹を育てます。